

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100424		
法人名	社会福祉法人 なごみ		
事業所名	グループホームみなみふくしま		
所在地	福島県福島市永井川字松木下34-6		
自己評価作成日	平成29年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成29年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居期間が長い方も多く、本人はもとより家族とも馴染みの関係が出来てきている。人生の集大成の時期にともに生活させていただけるとの重みを感じ、入居者一人ひとりの尊厳を大事にしながらか日々のケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

急病人がでた場合など、夜勤の職員がお互いに協力して利用者の救命対応や病院への救急搬送などを迅速にできるよう、2ユニットの利点である連携ができていて、利用者が安心して日々の生活が送れるよう取り組んでいる。
事業所同士の協力や連携が図られ、他の事業所にある足湯に出掛けたりカフェテラスでお茶を楽しんだり、利用者が変化のある日々を穏やかな日常を過ごせるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に地域密着型サービスという位置づけを考えた事業所独自の理念を職員全体で理解し共有し実践できるようにしている。	毎日朝礼の時、日勤の職員同士で理念を確認しあい、日々の利用者への関わりの中で反映されているかを振り返りながら、笑顔で接することを共有して実践に努めている。年度目標を検討しながら事業所の理念も職員と話し合いながら見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、回覧板などを通じ地域の活動に参加している。また、不定期ではあるがフラダンスや日舞などのボランティアサークルが訪問している。	町内会の行事で公園の草むしりなどに参加したり、散歩の時には地域の方と声掛けや挨拶などで、積極的に交流をしている。利用者の知り合いで日舞の師匠さんによる訪問など地域住民との触れ合いの機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方より散歩時など認知症について相談をうけることも多く、ホームにきていただき話を伺ったり、一緒に支援の方法について考えるなど、認知症の人のケアに対する啓発に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ホーム便り等を提示しながら現在のサービス状況や現状における課題や問題点について率直な意見を頂きながら話しあいサービスの向上に努めている。	運営推進会議で、要望があり事業所内を見学していただいたり、認知症や看護認定などの質問に説明をしたりと、会議を活かして地域の理解と支援を得るために会議のメンバーの方々と積極的に関わられるよう働きかけ、意見をもらう取り組みに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域福祉課の担当職員と連絡体制が取れており、現状の報告や相談などをしながら、協力関係を築いている。	市の担当者が運営推進会議のメンバーになっているので、相談や色々な話し合いができる関係作りに努めている。介護認定や入院が長引いていた利用者の相談などに意見をもらったりと連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修等を通し、理解を深め、職員間での周知徹底に努めている。玄関の施錠は危険防止のため、夜間のみとしている。	職員は事業所グループの研修の中で身体拘束や言葉による拘束をしない事を話し合い、実践に努めている。事業所内では日々の申し送りで利用者の気持ちを押さえつけたりしていないか話し合い、安全面にも配慮した暮らしを支えるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、それを職員間で共有することで、不適切なケアのないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度・日常生活支援事業を利用されている入居者がおり、職員も制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に重要事項説明書に基づき十分説明しご理解いただくように努めている。また、入居後も疑問等についていつでもお答えさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時などにご家族の意見や要望を伺い、運営に反映させている。また、年1回法人が実施している満足度アンケートの結果等から頂いた意見や要望に対し運営に反映させるように努めている。	家族からほこりなどの清潔面で意見があり、職員の話し合いで速やかに対処して改善に取り組んでいる。利用者と家族、職員がフロアで輪になって話し合いをすることで多くの意見や要望が出され、運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案ができる状況にあり、また、ユニット会議や全体会議の中で個々の考えを聞き、それを運営に反映させている。	職員の要望で食器乾燥機を購入し、利用者への支援や配慮に有効な時間の使い方に活かされているなど、管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に対し、現状の報告や要望を随時行うことで、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量にあった研修に参加する機会を設けている。また、様々な内部研修があり勤務調整をして全職員がムラなく参加できるよう工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており、研修を通じて他事業所との情報交換などによりサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人や家族から話を伺い、不安なことや要望などについて話し合い安心して生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学の時から、家族が本人の生活に対して感じている不安や入所後の要望等を伺いそれについての話し合いの中で安心して頂けるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に行う本人、家族との話し合いの中で要望を把握し現在必要としているサービスを様々な角度から考え、提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者から暮らしの知恵を教えていただく機会も多く、人生の先輩として敬意を持ち、お互いに支えあいながら穏やかに生活していけるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで日々の暮らしぶりなど、また必要に応じ電話連絡でその時々の様子をお伝えし共に支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出を積極的に支援し、なじみの方の面会時にはゆっくりと過ごしていただけるように努め、関係が継続できるように支援している。	家族や職員と受診や食事、墓参りなどに出かけたりして、一人ひとりの生活習慣を尊重し利用者の馴染みの関係が継続することに努めている。知り合いの食堂では、ハサミを持参して刻んで食事もできるなどの信頼関係を築き、利用者の積極的な外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席の配置の工夫や職員が適切に間に入ることにより良好なコミュニケーションが築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に家族が来所されることもあり、これまでの関係性が途切れぬような対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりが思い思いの場所でくつろいだり、自由に過ごしている中で、なにげない動作や視線などからも本人の思いや意向の把握に努めている。	言葉が出にくい利用者には、家族から話を聞いたり、お笑い番組を見ると笑いやうれしい声を出すなどの何気ない動作やしぐさで、利用者の思いをくみ取り把握するよう、職員は利用者本位で対応するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人や家族からの情報や、入所後の生活の中での様子からこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや暮らしなどを理解するとともに、その時々々の言動や心身の状態に適した過ごし方が出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中での気づきを大事にし、入居者の小さな変化も見逃さず、情報を共有するために話し合いや申し送りをし、介護計画に反映させている。	利用者の日々の状況変化に応じて、普段の食事がのどを通らない様子が出てきた場合など、職員同士の情報交換や医師の判断で食事の内容を変えたりと、臨機応変な対応ができるよう話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録やチェック表、申し送り記録などから情報を共有し、ケアの実践や介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援には可能な限り柔軟に対応しており、信頼関係を築くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアサークルや民生委員、町内会役員、近隣住民との繋がりを大切に、地域の中での支えあいの輪の中で生活していると実感できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、入所前のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。家族対応が困難な場合には事業所が受診支援、または往診対応に切り替えるなど柔軟に対応している。	受診は家族対応の場合や職員の時もあるが、利用者の診察結果はお互いに情報の共有に努めている。かかりつけの歯医者は往診も対応してもらっている。整形外科や皮膚科は電話で予約ができて優先的に診察してもらえ関係を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化に応じた適切な支援が行えるようにするため、介護職員と看護職員の密接な連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し、入院中は医療機関と連絡を取りながら安心して治療が受けられるように支援している。また、早期退院に向けて関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の指針」を入居時に説明し同意を得ている。また、重度化が予想される入居者のご家族とは終末期のあり方に対する思いや考え方を伺い、その内容を医療機関に報告、相談しながら方針を共有して支援ができるように努めている。	家族は看取りを希望する方が多く、看護師を常勤させて終末期の対応は検討しながら取り組んでいる。利用者の状況変化には家族の意向を踏まえ医師、職員共に情報を共有して対応するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを必要に応じて見直しながら使用している。また、内部研修でも対応を再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人としての非常時災害対策計画とは別に事業所としての非常時災害対策計画がある。それをもとに夜間を想定した避難訓練などを行い問題点の把握に努めている。次回の避難訓練は地震を想定した訓練を行う予定である。	消防署の協力で年2回の避難訓練をしていて、避難場所は車で2分の事業所本部に決められている。町内会を通して地元消防団との連携が取れているので訓練への協力を図っている。食料や水は3日分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や家族から入居前の生活歴や性格などを伺い、一人ひとりのプライバシーが保てるような声掛けを心がけ、入居者が安心して過ごすことができるように努めている。	利用者の中には色々な性格の方がいるので、本人を傷つけないようさりげない言葉かけや誘導の声掛けなどの対応に配慮している。本部からは敬老会や年祝いの度に利用者に表彰状を手渡して、敬意を払い人権を尊重する取り組みに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に話しかける雰囲気をつくり、本人が思いや希望を自由に表現し、自己決定できる様に努めている。また、意思表示が困難な入居者には、表情やしぐさ、反応などより思いをくみ取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大事にし、体調を考慮しながら、さまざまな希望にできるだけ添い、本人のペースで生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや外出の際は、本人の好みなどを尊重し、服を選んで頂いている。また、訪問理容を利用し身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をするのは難しくなってきたが、職員が入居者と一緒に食事し、その折に食事メニューについて希望をお聞きするなどして楽しい時間になるように努めている。また、年中行事に合わせた特別食を取り入れ季節感を大切に食事の工夫をしている。	利用者のできる下ごしらえや盛り付け、味見などを手伝ってもらって職員と共に楽しい食事となるように努めている。行事食や誕生会の食事は利用者の希望を聞いて対応している。四季折々の外出には弁当を持って出かけたり、外食を楽しんできたりと工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの管理栄養士が献立を立てており、栄養のバランスが整っている。また、飲み込みの悪い方は、定期的に嚥下検査をしていただくことで、その方にあった食事量や食事の形態が提供出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせて口腔ケアを行っている。また、必要に応じ看護師や歯科衛生士が口腔内を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などにより、排泄パターンを把握し、入居者一人ひとりにあわせたトイレ誘導や介助を行っており、できる限りトイレでの排泄が継続できるように支援している。	排泄チェックシートを作り、バットの使用量を記入し確認したりして、時間を見計らってトイレへ誘導するなど利用者の生活リズムにそった支援に努め、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効果的な乳酸菌飲料や繊維質などを取り入れると共に運動も行っている。また、排便間隔を把握し、看護職員と連携して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを入浴前に必ず行いながら、できる限り一人ひとりの希望に添うように努めている。介護者の性別等も考慮しながら、入浴を楽しむことができるような言葉かけや雰囲気づくりにも努めている。	入浴は、希望によっては利用者の望みの時間にも対応して楽しい時間になるように配慮している。季節感のあるしょうぶ湯やゆず湯にしたり入浴剤を利用したりして利用者の生活習慣に合わせた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調に合わせて、できる限り自然な生活リズムでゆっくり休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報を個別にファイルし、常に確認できるようにしている。また、薬の処方が変わった時は、申し送りを通じ情報を共有しながら、状態変化の観察に努め、看護師を通して薬剤師、医師などにその都度疑問点などを確認しながら指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした園芸や手芸をして頂いたり、好きな食べ物を希望時に提供し、楽しみを持って生活ができるように支援している。また、散歩や外出などで気分転換が図れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は個別に散歩に出かけたり、外食や買い物、お墓参りなど家族にもご協力いただきながら一人ひとりの希望に添うことができるように努めている。	本部に食材を取りに行く時、利用者と職員が同行して一緒に買い物をしてきたり、近所の住宅地を散歩したりと出かけている。家族とお盆に墓参りに行ったり、お彼岸に線香をあげに自宅に行ったりして積極的に外出を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理できる方はおられないが、本人の希望に合わせ家族の同意を得たうえで、買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望をもとにご家族と相談しながら、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔第一に心がけ、入居者が安心してくつろげるような生活感や季節感を取り入れた共有空間づくりに努めている。	2ユニットのためお互いを行き来して利用者の交流を図り、居心地の良い場所になるように配慮している。中庭の吹き抜けの空間から光が入り明るい雰囲気、季節感が感じられる工夫がされている。利用者の作品が飾られ寛げる場所になるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上独りになれる場所は少ないが、テーブル席の配置や踊場の活用などの工夫をし、一人ひとりが思い思いに過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	安全を考慮しながら、入居者にとって居心地のよい居場所であるように好みのものを活かしてできる限り制限を設けず落ち着いたある居室づくりに努めている。	利用者や家族の写真、思い出の馴染みの人形などが持ち込まれて居心地の良さに配慮している。安全で温かい雰囲気の中で暮らしてもらえるように、職員は利用者とは相談しながら居室づくりの工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をかけたり、床にテープで矢印を貼ってトイレの位置を知らせるなど自立した生活ができるような支援に努めている。		